

いま、ここで生きられる。
その場所を確かめる

報ほう恩おん講こう

平成二十八年十一月八日（火）

午後二時より

岸上山

受念寺

勤行（おつとめ）

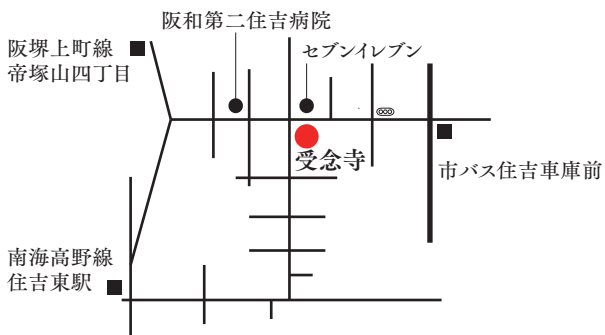
正信偈 真四句目下

* 昨年お越しの方は、水色の表紙の「報恩講勤行集」
をお持ちください。

法話（おはなし）

平野喜之師

浄専寺住職
学仏道場「相応学舎」留守居役
金沢大学非常勤講師（数学）



【天王寺方面から】

- 阪堺上町線：天王寺駅前→帝塚山四丁目下車 徒歩約5分
- 市バス：あべの橋（62,63,64,67系統・住吉車庫行きなど）
→住吉車庫前下車 徒歩約2分

【なんば方面から】

- 南海高野線：なんば（各駅停車）→住吉東下車 徒歩約8分
（駐車場はありません。近隣にコインパーキングがあります。）

真宗大谷派 岸上山 受念寺

住所 558-0055 大阪市住吉区万代5丁目17-25

電話 06-6674-1135 ホームページ junenji.publog.jp

「報恩講」に

ほう おん こう

初めての方でも、お一人でも、またご友人、ご家族とご一緒でも、どなたでもお気軽にお越しください。

お越しください。

途中からでも、途中まででも、出入りは自由ですし、服装も普段着で結構です。

私たちは、目の前のことに追われる忙しい日々の中で、また理不尽なこと、深い悲しみの中で、ふと何か心にぽっかりと穴が空いてしまうことがあるのではないでしょうか。

何か空しくなって生き生きと生きられなくなる。深い苦しみ、悲しみに直面して、これまで大事だと思ってきたものが役に立たない、と思い知らされる。どこにも安心できる場所がない。そこまでではなくても、ほんとうにこれでいいのだろうか？というような疑問を抱く。

ときには少し立ち止まって、「いったい自分にとってほんとうに大事なことは何だろうか」「人間として生きるとはどういうことか」を確かめたい。そう思っても、日常の中にあるような場所がなかなか見つかりません。

そんなときに、人間として誰もが抱える課題を引き受け、向き合われた親鸞聖人のことば、生き様に触れた人たちがいました。

「同じ苦しみを抱え、それに向き合われてきたのだ」と。
聖人が向き合い続けた課題とは。そしてその歩まれた道とは。

法話 「孤独と救い―祇園精舎に集う人々」

ひらのよしゆき
平野喜之師 略歴

石川県かほく市 浄専寺住職
昭和39年、京都市生まれ。

金沢大学理学部数学科博士課程修了後、
大谷大学仏教学科博士課程満期退学。
現在、京都の学仏道場「相応学舎*」留守
居役。金沢大学非常勤講師(数学)。
大谷派修練スタッフ。

「生きて罪を償う」井上嘉浩さんを死刑
から守る会事務局。

*相応学舎：安田理深先生(一九〇〇〜
一九八二)により、五十年にわたって続け
られた私塾。現在も仏教を学び自己を
学ぶ場として、人々が集まる。

インドの写真展―祇園精舎



昨年、インドの仏
跡をめぐってき
ました。『仏説阿
弥陀経』の説かれ
る「祇園精舎」のある舍衛城(シユラ
ーヴァステー)にも行きましたので、
その時の写真を展示いたします。